

川崎市生田緑地のオオルリ繁殖例について

木下あけみ*1・三谷頼吾*2・野鳥班*3

Breeding Records of Blue-and-White Flycatcher *Cyanoptila cyanomelana*
in the Ikuta-Ryokuchi Park, Kawasaki City

Akemi KINOSHITA, Raigo MITANI and Bird Researcher Group

I はじめに

生田緑地は川崎市の北西部に位置し、多摩丘陵の北東端を形成している。公園部分は約50haで、隣接のゴルフ場、向ヶ丘遊園地とその周辺の雑木林などを含め約170haが都市計画区域となっており、市内でもまとまった緑地として多くの野鳥が目撃されている。この地で、1995年にオオルリの繁殖を確認したので報告したい。

生田緑地の野鳥相については、沼里(1985)、宇野ほか(1987)、木下・野鳥班(1994)の報告があり、1991~95年で81種の野鳥を確認している(野鳥班 未発表)。オオルリは、ほぼ毎年春の渡りの時期に短期間滞在し5月半ばには姿を消して、この地での繁殖は今まで確認できなかった。

なお、オオルリの県内での繁殖は、丹沢、箱根、大磯の高麗山、横浜市円海山付近、三浦半島二子山などで確認されている(日本野鳥の会神奈川支部、1992)。

また、神奈川県立博物館ではオオルリを「繁殖期の減少種」とし、近年、生息環境の減少に伴い数が減っているとしている(平田、1995)。

この短報は複数の目撃情報をまとめたものである。情報を寄せられた方々に感謝の意を表したい。また、巢材のコケの同定を平岡照代氏((財)平岡環境科学研究所)にお願いした。また、報告書作成にあたり浜口哲一氏(平塚市博物館)にご指導いただいた。あわせて御礼申し上げます。

II 繁殖の経過

1. 営巣場所

巣は生田緑地公園内の池と尾根をつなぐ木製階段の下の支柱部分に作られた(写真1・2, 図1)。階段の脇は片方が大きく開け、湧水の滲み出す斜面に接している。その西側はゴルフ練習場である。周囲はコナラの優占する二次林であり、池の周囲に一部メタセコイアなどの植栽がある。全体として、昼でも比較的日の当たらない湿った環境である。

この階段は公園内の主要な通り道の一つで、比較的閑静ではあるが、遠足の小学生や体育系学生が掛け声と共に駆け登っていく事もあり、鳥にとっては常時人目と音

を気にしなければならない場所である。ただ、営巣場所は巧妙に選ばれており、普通に上り降りする人はほとんど気づかないと思われる。

オオルリは溪流近くの落葉広葉樹林の岩または崖地に営巣する(中村ほか、1995)が、キャンプ場の建造物などへの営巣も報告されている(沼沢ほか、1988)。生田緑地には小さな湧水や細流が数カ所あるが、近くに適当な崖がなく、このような場所を選んだのではないかと思われる。ここで2つの巣が確認された。

2. 観察記録

1995年の初認から終認までの記録を記す。営巣が確認されてからは、観察者はできるだけ親鳥を刺激しないよう心掛けた。しかし、常時人が行き来する場所なので口こみでだんだん知る人が広がり、結果として巣のそばで留まる人の数が増えたことは否定できない。

場所：①~⑭で示す(図2参照)

観察者：佐野(S) 木下(K) 野鳥班(Y) 志村章子(SI) 石井(I) 若宮崇令(W) 山田喜雄(YA) 三谷(M) 水田(MI) 太田(O) 成田(N) 増渕和夫(MA) 道坂秀雄(MIC) 金井(KA) 安井(YASU) 平川(H) 上アサ子(U)

1995年

4.22 8:20-9:50 (曇ときどき小雨) ♂目撃、さえずらない。

② (S,K)

4.23 8:00- (曇ときどき小雨) ♂さえずる。② (Y)

4.24 午前中(晴れのち曇) ♂メタセコイアの上でさえずる。⑫ (SI)

4.25 15:50- (小雨) ♂さえずる。④ (K)

4.26 9:00,11:00 (晴) ♂さえずる。声につやが出てきた。

④~⑤ (K)

4.27 7:00 (晴) ♂さえずる。②; ♀目撃③

10:00 ♂①でさえずり、枳形山の方へ飛び去る。(I)

4.28 9:00- (曇) ♂ヒマラヤスギの上でさえずる。⑤(K,W,YA)

4.29 15:00 (曇) ♂ヒマラヤスギの上でさえずる。⑤

人出多く賑わうが、殆どの人は気づかない。オオルリの方も人を気にせずさえずる様子。時々カラスに樹上を追い払われる。(K,M)

*1 川崎市青少年科学館 *2 日本野鳥の会神奈川支部

*3 川崎市民自然環境調査団

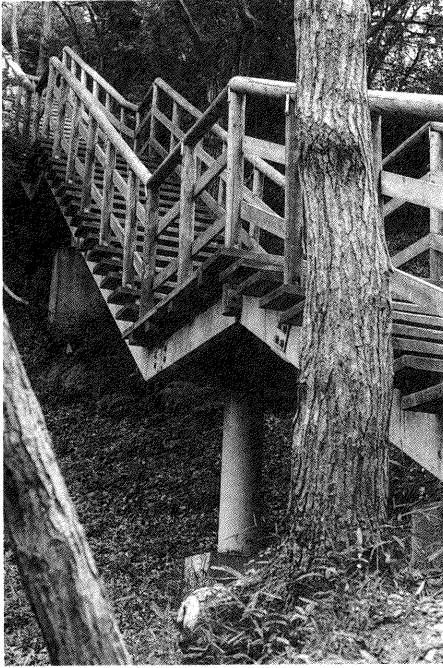


写真1 営巣場所

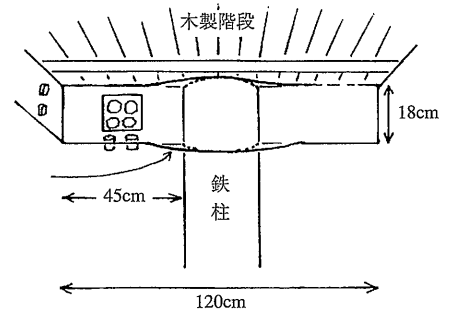
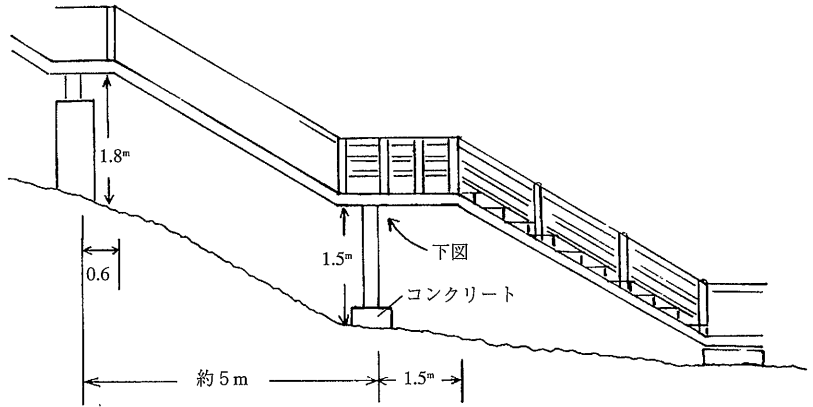


図1 営巣場所

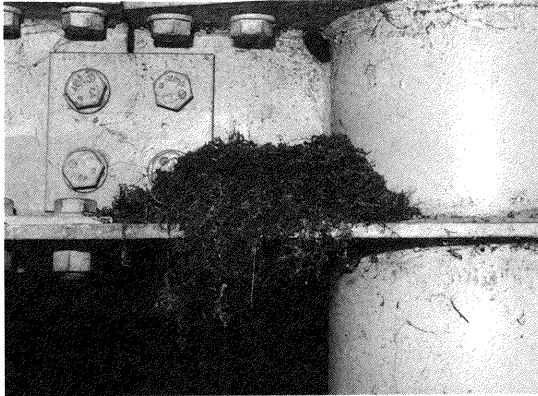


写真2 第一巣



写真3 ヒマラヤスギの上でさえずるオオルリ (永島治氏撮影)

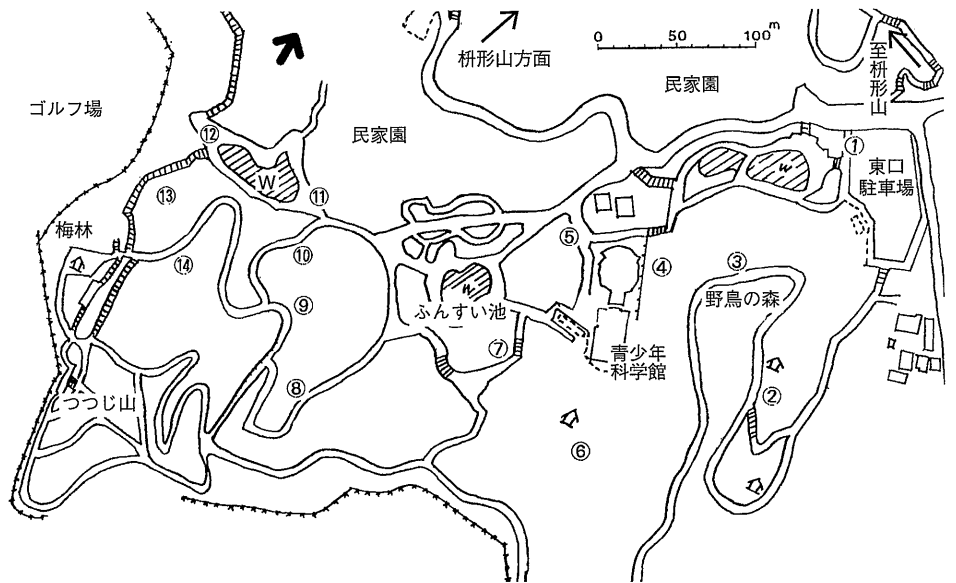


図2 観察地 (生田緑地)

- 4.30 6:00-8:00 (小雨) ♂さえずる。④～⑤ (K,MI)
- 5.2 8:30 (曇) ♂ヒマラヤスギ上でさえずる。⑤ (K)
- 5.3 5:30- (曇) ♂2羽が同時にさえずる。⑤ヒマラヤスギ上と⑫メタセコイア中程の高さで。(Y)
- 5.4 10:30 ♂ヒマラヤスギ上でさえずる。⑤ (S)
- 5.6 午前中 (曇) ♂ヒマラヤスギ上でさえずる。⑤; ♀が細流 (⑪と⑫の間) で水浴び。(SI)
- 5.7 5:30-8:00 (晴) ♂2羽が同時にさえずる。⑤(写真3)と⑪; ♀目撃⑨ (K,S)
- 5.8 9:00 (曇) ♂ヒマラヤスギ上でさえずる。⑤→③方向へ移動。
 ♀ 10:10 ♂⑫のメタセコイア上でさえずり, 11:00頃ゴルフ場の方へ移動。(SI)
- 5.9 7:20-7:50 (晴) ♂ヒマラヤスギ上でさえずる。⑤ (W)
 この日以後, 高らかにさえずる声は聞かれなくなった。
- 5.25 16:30 (晴) 第一巣を確認。♂と♀がそれぞれ巣に入る。♂はアオムシ, ♀はチョウを口にくわえていた。階段の手すり上に止まってから入ったので巣の場所が分かった。(O)
- 5.28 10:00 (晴) ♂♀交互に巣に入る。巣に入る時はもう片方が近くで警戒。巢中にヒナ2羽。2羽の大きさに少し大小あり。(O)
 ♀ 15:50-16:30 ♂巣のそばで, 口に虫をくわえている。♀もそばにいる。巢中で動くものあり。(K,S,N,O)
- 5.30 11:00-11:30 (晴) 巢中動くものなし。♂チャチャと舌打ちのような警戒音を出しながら⑫のメタセコイアの間を飛ぶ。♀チャチャとメタセコイアの枝で鳴く。同時にもう1個体小さな声でさえずる。しばらく待つが親鳥が巣に入らないので, 階段から下りて巣に近づいて中をのぞく。卵3 (内1つは割れている。)(K,MA)
 ♀ 11:45-12:10 ♂♀目撃⑫, 小さな声のさえずりとチャチャが聞かれる。人が巣から見えない所へ遠ざかっても巣に近づけはなし。(K,W,MIC,O)
 ♀ 13:30-17:00 オオルリの声聞かれぬ。巣のそばに親鳥のけはいなし。階段の他の支柱には巣なし。(KA)
- 5.31 9:00-11:00 (晴) 巣には親鳥近づかない。⑩で♂♀がお互いに見える位置でさえずり, 鳴き交わしている。♂は尾をピンと上げ体を前後に動かしながらさえずる。(M,K,O,KA,I,H)
- 6.1 7:30 (晴) ♀さえずる。初めはささやくように弱々しく次第に強く複雑な節回し。10分以上続く。尾を上げ昨日の♂と同じポーズで鳴く。⑭ (録音, I)
 ♀ 9:20-10:10 ♀目撃, 鳴かない。⑭ (K)
 ♀ 夕方 ♀イモ虫を口にくわえている。⑬ (O)
- 6.2 9:00-10:00 (晴) 小さな声のさえずりを聞く。⑩ (K,YASU)
 ♀ 15:30-17:00 ⑫そば。土壁から湧水しみだす林。巣立ち雛(幼鳥)2羽を目撃。15分おきに親が給餌。1羽はまだあまり飛べない。もう1羽はかなり飛べる。たいていは♂が上で見張っていて♀が餌を運ぶ。
 ♀ 17:15 暗くなったので遠くからプロミナで幼鳥を見る。胸はまだ模様でじっと動かない。(M,O,K)
- 6.3 5:40-7:00 (晴) 幼鳥は前日の場所にはいない。♂♀を目撃。小さな声のさえずりが聞かれる。⑫ (M)
 ♀ 8:00 ⑭の梢に幼鳥2羽を目撃。1羽がストンと下に落ちたので近づくと, すぐ横に虫をくわえた♀がいた。♂は⑨でさえずっていた。(I)
 ♀ 16:00-17:00 ♂♀幼鳥1羽を目撃。幼鳥は2度見た。よく飛べる。別の♂(鳴かない)が1羽そばにいた。⑬ (KA)
- 6.4 午前中 (曇ときどき小雨) ⑫で♂♀目撃。まず南の方から♀が来てゴルフ場そばの木の枝に止まり, つづいて♂が鳴かずに近くの枝に止まる。(SI)
 ♀ 17:00-17:15 ♂が羽をたたくようなタッタという音をたてる。さえずらない。別の個体が小さな声でさえずっている。⑬ (K)
- 6.6 夕方 (雨) 第二巣発見。第一巣の一つ上の支柱。両巣の間隔5m。巣の幅は第一巣より狭く感じる。(M)
- 6.7 9:30 (曇) ♀が口は何かくわえている。尾をあげて羽を打ち合わせるような音。⑫ (K)
- 6.8 5:00- (曇) 巣の近くでは確認できず。柵形山のほうで声が聞こえたが目撃できず。(M)
 8:20-8:30 巣の近くに親いない。(K)
 17:00-17:15 親近くにいない。体育系学生が集団で大声を出しながら階段を駆け登っていく。(K)
- 6.9 夕方1時間位 (雨) 巢から少し離れた所で待つ
- 6.10 10:00-11:30 (雨) 親確認できず。(KA)
- 6.11 5:00-7:00 (晴のち曇) 親確認できず。(M)
- 6.12 12:00-2:00 (曇) 親確認できず。周りに親がいないのを確かめて巢中をのぞいたら卵4個あり。(KA,I)
 ♀ 15:00 巣からは離れた⑥で♂短時間さえずる。(I)
- 6.14 9:30 (雨つよい) 抱卵中。尾と下腹部の白, 足見える。(K)
 ♀ 15:30 (小雨) 抱卵中。尾と風切りの先が見える。別の個体のさえずりが⑨の茂みから聞こえる。(KA)
 ♀ 16:00 (霧雨) 巢中いない。⑨で断続的にさえずりが聞こえる。(KA,K)
- 6.15 9:00-9:20 (曇) 巢中いない。周囲でタッタと警戒音。⑩でさえずりが聞こえる。(K)
 ♀ 10:00-10:20 (晴) 巢中いない。♀が近くで尾を上げながら警戒音。こちらが巣から離れたら, 巣に入った。(M,K)
 ♀ 夕方 親抱卵中。⑬で♂♀のディスプレイを見た。(KA)
- 6.16 9:00-9:20 (晴一時霧雨) 抱卵中。尾のみ見える。♂が⑩のメタセコイア上で高らかにさえずる。(K)
- 6.17 7:50 (晴) ♂が⑤のヒマラヤスギ上でさえずる。5月初めほどけたたましくない。(W)
 ♀ 9:00- ⑪で♂♀, ♂は尾羽をさかんに広げ, すぐに2羽で飛んでいく。巢中いない。その後⑩のメタセコイア上で♂がさえずる。(K)
- 6.18 9:00 (晴) ♂が巣の近くまで飛んできたが, こちらを警戒してタッタと小さく鳴く。♀抱卵中。大き

- な声の人が近づくとひは飛び去った。(I)
 ♪ 10:30 抱卵中。顔が黒いのでひか? (K)
 6.20 10:30 (曇のち晴) ♀抱卵中。大勢で見たせいか途中で逃げた時♀と確認。(Y) ひがさえずる。⑧ (I)
 ♪ 14:30 ♀目撃④ (S,H,MI)
 6.21 10:00 (曇) ♀抱卵中。(K)
 6.22 7:45 (雨) ひさえずる。⑤のヒマラヤスギ上 (W)
 11:30 (霧雨) ♀抱卵中。(K)
 6.23 11:00 (雨) ひさえずる。⑤のヒマラヤスギ上
 11:20 巢中いない。(K)
 6.24 6:50,8:20 (曇のち晴) 巢中いない。⑭でひ小さな声でさえずる。(M)
 ♪ 8:30 巢中いない。⑦でひ目撃, 鳴かない。(I)
 ♪ 16:00-17:50 巢中いない。⑩~⑭でひさえずる。(KA)
 6.25 6:00 (曇) 巢中いない。⑩~⑭でひさえずる。(KA)
 7:00- 巢中いない。⑥で♀を目撃。(I)
 6.26 9:00-10:30 (雨) 巢中いない。ひが小さな声でさえずる。⑩~⑭ (S,H)
 6.27 9:00-9:40 (霧雨のち曇) 巢中いない。⑩~⑭で移動しながらさえずる個体あり。同じ声が⑫に来た時目撃, ひが上を向いてさえずっていた。単独。(K)
 ♪ 15:00 巢をすでに放棄したと見なし, 2つの巢を外す。第二巢には卵なし, 巢の手前側が少しくぼんでいた。周囲にもかけらは見つからない。(M,K)
 6.28 9:00-9:15 (曇) ひがさえずる。⑬→⑪メタセコイア上
 ♪ 12:00 よく響くさえずりの声が聞こえる。⑬→⑩
 ♪ 17:00- ⑩の方でさえずりが聞こえる。(K)
 6.29 8:50-9:05 (曇) ひさえずる。⑪メタセコイア上→⑫へ移動。よく響く声。(K)
 7.3 朝 (曇) さえずりを聞く。⑫ (U)
 7.6-7 朝 ⑫~⑩~⑥ではさえずりは聞かれない。(K)
 7.11 11:00頃 (曇) 幼鳥 (ひか?) を目撃。⑭ (I)
 7.15 午前中 (曇) さえずりを聞く。⑫周辺 (SI)

III 巢材

6月27日に第二巢は放棄されたと判断し, 2つの巢と第一巢の横にあった積んであったコケを採集した。巢の底部は水気を含み, 第一巢に残されていた卵の周りには虫が飛んでいた(写真4, 表1)。巢材のコケの同定を平岡氏にお願ひし, 巢を壊さない範囲で目視によりサンプルを抜き検鏡したものが, 表2である。

第二巢の最下部にはミズギの花柄が敷いてあり, その他の巢材はすべてコケであった。全て蘚類で苔類・ツノゴケ類は見られず, どれも生田緑地に生育する種と思われる。出現種は柔らかいクッション材(コカヤゴケ, ヒメナギゴケなど)と補強材(トヤマシノブゴケ-長くてからまりやすい, 茎が丈夫)とに大別される。全種に共通なのは, 茎が長く伸びる, 葉が細かくて柔らかいことである。巢材の多くを占めるコカヤゴケ, トヤマシノブゴケ, ヒメナギゴケなどは, 神奈川県下では湿度の高い林内や細流の脇, 湿った崖, 岩上に普通にある種である。

コケの特徴は, 種子植物と違って採取されてからも長

く生き続ける(抗菌力があり, カビがはえにくい, 腐りにくい)ことであり, 営巣場所が暗く多湿であったことを考えてもうなづける。

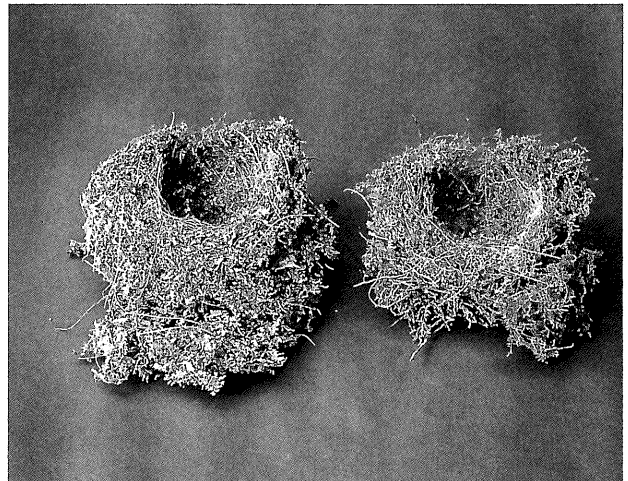


写真4 第一巢(左)と第二巢(右)(平岡正三郎氏撮影)

表1 巢・卵の大きさ

	第一巢	第二巢
巢の外径 (幅×奥行) cm	13.5×14.0	13.5×9.5*
高さ cm	8.0	6.0-8.0
巢の内径 (幅×奥行) cm	6.5×7.0	6.0×6.5
深さ cm	5.0	3.5-5.0*
巢に残された卵数 (径×長さ) cm	2 (1.2×1.9) (1.4×2.1)	0
地上からの高さ m	1.5	1.8

*巢の正面が手前に少し傾斜していた。

表2 巢材のコケ

巢材(種名)	第一巢		
	第一巢	横	第二巢
コカヤゴケ <i>Rhynchostegium pallidifolium</i>	多	多	+
トヤマシノブゴケ <i>Thuidium kanedae</i>	+	+	+
ハネヒツジゴケ <i>Brachythecium plumosum</i>	+	+	-
ヒモヒツジゴケ <i>B.helminthocladium</i>	+	+	-
アオギヌゴケsp. <i>B.sp.</i>	+	+	-
ノミハニワゴケ <i>Haplocladium angustifolium</i>	+	-	+
オオトラノオゴケ <i>Thamnobryum suhseriatum</i>	+	-	+
コマバキヌゴケ <i>Haplocladium microphyllum</i>	-	+	-
ヒメナギゴケ <i>Eurhynchium savatieri</i>	-	多	多
キヤラハゴケ <i>Taxiphyllum taxirameum</i>	-	-	+
コガネハイゴケ <i>Campyladelphus chrysophyllus</i>	-	-	+
ヤマトヒラゴケ <i>Homalia japonica</i>	-	-	+

*巢の上と下(外部)

オオルリの巣の巣材については、高木（1988）、田邊（1994）の報告があり、巣により使われるコケは1～7種以上、種もさまざまである。

IV まとめ

生田緑地で1995年にオオルリの繁殖が確認された。巣は時期をずらして2つ確認され、また第一巣の巣立ち雛を確認した。第二巣は途中で何かの原因で卵がなくなり放棄された。

第一巣からは5月29日か30日に巣立ったと思われる。オオルリの抱卵日数は12～14日（清棲，1978），育雛日数は11日（清棲，1978），約21日（細田，1975）との報告があり、これから推測すると、第一巣での抱卵開始は、早くて4月24日頃から、遅くて5月7日頃から、と考えられる。

今回の観察は断片的で全容をつかむには全く不十分であり、第一巣と第二巣は同じ番いが作ったのか、成鳥は全部で何個体いたのか、第二巣は何故卵がなくなり放棄されたのか等不明な点が多い。

第二巣の観察中に卵が抱卵していると思われる例を目撃した。オオルリについての従来の知見と異なっており、今後さらに注意していきたい。

巣材には生田緑地内に生育すると思われるコケを使い補強材・クッション材などに巧みに利用していた。

今後、繁殖が続くのかを含め、継続観察を行いたい。また、営巣場所から50mに隣接するゴルフ練習場で1996年秋頃から美術館建設工事が予定されており、工事の影響も見守りたい。

文 献

- ・服部新佐・岩月善之助・水谷正美（1972）原色日本蘚苔類図鑑。（保育社）大阪。
- ・平田寛重（1995）鳥類。神奈川県レッドデータ生物調査報告書。神奈川県立博物館調査研究報告（自然科学）（7）：140-156。神奈川県立生命の星・地球博物館。
- ・木下あけみ・野鳥班（1994）川崎市生田緑地の野鳥とその季節的消長。川崎市自然環境調査報告Ⅲ。pp.177-188。（川崎市教育委員会）。
- ・清棲幸保（1978）増補改訂版日本鳥類大図鑑 Vol. I。pp.158-162。（講談社）東京。
- ・中村登流・中村雅彦（1995）原色日本野鳥生態図鑑。p.131。保育社。大阪。
- ・日本野鳥の会神奈川県支部（1992）神奈川の鳥1986-91—神奈川県鳥類目録Ⅱ—。pp.291-292。
- ・沼里和幸（1985）川崎市生田緑地における野鳥の生態的分布。Strix（4）：13-25。
- ・沼沢篤・薄井英司・溝口俊夫（1988）オオルリの建造物への営巣例。Strix（7）：285-287。
- ・高木典雄（1988）面白いコケ（蘚苔類）の生態（XIV）。植物研究集録（24）：1-6。愛知植物研究会。
- ・田邊光夫（1994）オオルリの巣。日本蘚苔類学会会報6（6）：127。

・宇野美苗・金井キミ子・佐野悦子・宮永光子・増渕和夫（1987）川崎市丘陵部の野鳥とその季節的消長。川崎市自然環境調査報告Ⅰ。pp.105-114。（川崎市教育委員会）

野鳥班（オオルリ観察者）：石井一与、金井キミ子、佐野悦子、高野淳子、成田和子、橋本志津子、早坂文子、平川恵美子、水田茂子、安井やす子、渡辺キヌ

